

# 移動市長室会議録（平成23年10月14日）

1 日 時：平成23年10月14日（金）、14時～15時30分

2 場 所：生涯学習センター 学習室 6

3 出席者：

『筑紫野市ボランティアバンクの会』

堀内会員、岩崎会員、山下会員、平野会員、名切会員、潮見会員、高井会員、  
角町会員、秋岡会員、湯村会員、大坪会員、早原会員、池田会員、早井会員、  
国分会員、茶園会員、萩尾会員、立石会員、遠坂会員、清水会員、鹿田会員、  
森田会員、山野会員、薬師寺会員、尾関会員、藤田会員、山内会員、川畑会員

『筑紫野市』

藤田市長、澤田教育部長、中村生涯学習課長、渡辺生涯学習課長補佐兼生涯学習  
推進担当係長、檜木秘書広報課長、砥上秘書広報課長補佐兼秘書広報担当係長、  
松隈秘書広報課主任

4 内容：

・筑紫野市ボランティアバンクの会の活動内容、要望などについての懇談

(事務局) 皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、筑紫野市ボランティアバンクの会の皆様方には大変貴重な時間をいただきまして本当にありがとうございます。

ただいまから第3回移動市長室を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

移動市長室はより細かく市民の方の声を把握いたしまして、市政に反映させようとするものでございます。今年の8月から、藤田市長みずからの発案により実施をさせていただいています。また、市政をより身近に感じていただくことも目的としております。

本日の移動市長室は、お手元に配付のレジュメのとおりに進めさせていただきます。この後、市長あいさつ、それから参加者の皆様方の自己紹介、そして懇談というふうに移ってまいります。懇談の中身ですが、ボランティアバンクの会の現在の状況、それから課題、最後に御要望と、そういったふうに進めさせていただきたいと思っております。

では、藤田筑紫野市長が皆様にごあいさつを申し上げます。

(市長) 皆さん、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました、筑紫野市長を務めさせていただきます藤田陽三でございます。今日の移動市長室でございますけれども、日ごろから生涯学習推進のために、また、社会奉仕の崇高な精神のもと、市民に対し献身的に学習活動の支援、御尽力をいただいております筑紫野市ボランティアバンクの会の堀内みどり代表を初め、会の皆さんとの懇談をさせていただき大変うれしく思っております。

市長就任後、市内の公共施設などを視察させていただいておりますが、時間の制約もございまして十分なお話を伺うことがなかなかできません。もっと、市内で活動されている団体・グループの方々と身近なテーマについて、ひざを突き合わせてお話を聞くことを通じて、この筑紫野市を市民にとって住みやすい、あるいは住んでよかったと思えるような、子や孫に誇れるような筑紫野市にしていきたいという強い思いから、この移動市長室を実施することにいたしました。

御承知のとおり筑紫野市では、市民が真の豊かさを実感できるような生涯学習社会の実現を目指しているところでございます。この生涯学習社会を構築していくためには、地域の中に学習を通じた人と人との触れ合いの場をつくって、だれもが、いつでも、どこでも、主体的に学び、教え合い、支え合えるような学習環境が重要になってまいります。

ボランティアバンクの会の皆さんや、ボランティアバンクに登録されている皆さん方が持っておられる貴重な経験や豊かな知識、優れた技能、さらには社会参加への意欲といったものが生涯学習活動の一層の促進に重要な役割を果たされているとともに、冒頭申しましたような住みやすいまちづくりに大きく貢献をいただいていると確信をしていると

ころでございます。

皆さんの思いをしっかりとお聞きしながら、懇談させていただきたいと考えております。

本日は、1,534人の登録をいただいているボランティアバンクの運営をされているボランティアバンクの会から、全会員39人中28の方が御参加をいただいているということをお聞きしております。絵画、武道、書道、それから将棋、いろんな分野での指導者の皆さん方が集まっていらっしゃるということもお聞きし、小学校あるいは中学校にもその指導を広げていただいているということもお聞きしているところでございます。今日の懇談を非常に楽しみにしております。よろしく願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。

続きまして、参加者の自己紹介を行いたいと思います。まずは行政側のほうから自己紹介をさせていただきます。

事務局の秘書広報課の檜木と申します。司会を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(生涯学習課) 生涯学習課生涯学習推進担当の渡辺と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 秘書広報課秘書広報担当の砥上と申します。よろしくお願いいたします。

(事務局) 秘書広報課秘書広報担当の松隈と申します。よろしくお願いいたします。

(教育部長) 皆さん、こんにちは。教育部長の澤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(生涯学習課) こんにちは。生涯学習課長の中村です。よろしくお願いいたします。

(事務局) 以上が行政側でございます。

続きまして、ボランティアバンクの会、よろしくお願いいたします。

(会員) ボランティアバンクの会の代表をしております、堀内みど里と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 副代表兼研修事業を担当しています岩崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(会員) 事務局の事務局長をしております。藤田と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 地域活動推進事業を担当しています山下です。よろしくお願いいたします。

(会員) 同じく地域活動推進事業、平野でございます。

(会員) こんにちは。地域活動推進事業と青少年育成事業を担当させていただいており

ます潮見です。よろしくお願いいたします。

(会員) こんにちは。地域活動推進事業の名切と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 研修事業部を担当しております高井と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) こんにちは。同じく研修事業部に所属しております角町と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) こんにちは。私、研修事業部と、それから青少年育成事業部に在籍しております秋岡と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 研究事業の湯村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(会員) 研修事業に所属しております大坪と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 研修事業の早原と申します。まだ、入ったばかりです。よろしくお願いいたします。

(会員) 研修事業と、それから青少年育成事業の担当でございます池田でございます。よろしくお願いいたします。

(会員) 活動支援事業をしております早井と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 私は筑紫野市の市民になってから6年足らずですが、活動支援事業と青少年育成事業をしております茶園と申します。

(会員) こんにちは。活動支援事業の国分と申します。ボランティアバンクの会に入ってから4年目です。いたします。

(会員) 同じく活動支援事業の萩尾です。よろしくお願いいたします。

(会員) 活動支援事業の立石です。よろしくお願いいたします。

(会員) 同じく活動支援事業の遠坂です。よろしくお願いいたします。

(会員) 広報啓発事業の部長をしております清水と申します。

(会員) 同じく広報啓発事業の森田と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 同じく広報啓発事業と青少年育成事業に所属しております山野と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 同じく広報啓発事業の鹿田と申します。

(会員) こんにちは。青少年育成事業の部長をさせていただいております薬師寺と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) こんにちは。青少年育成事業の尾関と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) こんにちは。事務局をしています山内と申します。よろしくお願いいたします。

(会員) 同じく事務局の川畑です。よろしくお願いします。

(事務局) どうもありがとうございました。

ただいまから懇談に移りたいと思います。では、堀内代表から、現在の活動状況などのお話をお願いいたします。

(会員) 本年度の移動市長室の対象に私たちボランティアバンクの会をお選びいただいたことを、まずは市長にお礼申し上げますと同時に、選ばれたということは、それだけ市が私たちボランティアバンクの会に期待をしているんだろうというふうに思いまして、非常に責任も感じております。せっかくお話をする機会をいただきましたので、ボランティアバンクの会ができるまでのいきさつと、これからこの会が目指すものをお話させていただこうかと思います。

平成8年、9年、10年で、筑紫野市が当時の文部省からの委託事業を受けまして、モデル市町村の事業委託で生涯学習ボランティアの育成というふうな事業がありまして、生涯学習ボランティア講座を何人かの人が受けたんですね。筑紫野市を元気にするためにはボランティア活動が非常に大切だということを皆さんが習いまして、ボランティア活動を進めていこうということで、平成10年に市が生涯学習ボランティア事業というのを、ボランティアの紹介事業に限ったんですけれども始めたんですね。その時に、一緒に私どものほうでもボランティア推進会議というものを月に一回ぐらいしたんです。そして、生涯学習のボランティア活動が筑紫野市づくりに非常に有効な手段だということで、平成12年にはボランティアバンクの設立準備会をつくり、平成12年にボランティアバンクというものを市のほうが発足いたしました。それに私どもはボランティアバンクサポートの会というのを平成12年に立ち上げました。その時にはもう事業部門を、私はまだ、会のほとんどの部はまだ市のほうがしておられたんですけれども、事業部門研修とか、それから地域活動とか、部門を私どもが委託を受けまして動きまして、サポートの会が平成18年の3月まで続きます。その間に私どもは自主運営をしていかなければというふうなことで、私どもも熱い血に燃えましたし、市のほうも応援をしてくださいましたので、準備会を平成15年から平成18年ぐらいまで続けまして、平成18年の4月に筑紫野市ボランティアバンクの会というものを発足いたしました。

それから6年たちます。それからボランティアとして意欲のある人をボランティアバンクに登録していただきまして、登録者は今1,000人を超えたんです。その登録者をいかに活性化していくかというのがこれからの課題にもなると思います。ボランティアバン

クの会には5つの部会があります。5つの部会は、地域活動推進事業、活動支援事業、研修事業、広報啓発事業、青少年育成事業があり、それぞれに私どもの会が自分たちで学習をしていくというところと、それから登録者へのいろんな情報提供をしていこうということです。ボランティア派遣の事業も行っていますが、筑紫野市内の利用数が人口と同じくらいの10万人を超えました。私どもの会が活性化することが、筑紫野市を住み続けたい街にしていくんだというふうに確信しております。会員は全部で39人いるんですけども、みんなボランティア意欲に非常に燃えており、どなたもボランティア活動を楽しんでおられるというのが非常にいい姿だというふうに思っております。

課題もありますけれども、現状を事務局のほうからお話しし、それからそれぞれの事業部がどういう仕事をして、どういうふうな活動をしているかということ、各部長からお話させていただきます。

（事務局） 貴重なお話をいただきました。ありがとうございます。

では続きまして、藤田事務局長のほうからお話をお願いいたします。

（会員） 資料の4ページ、別紙資料1というところを開いてください。平成22年度の筑紫野市生涯学習ボランティアバンク登録派遣事業実績が載っております。登録派遣にしまして、平成22年度は依頼数が318件、活動者数が5,267人、利用者数が11万1,568人、登録者数が指導者、支援者あわせて、個人が1,038人、団体が39団体496人に登録いただきまして、合計1,534人の登録者があります。

分野別と派遣先別でみた内訳の表を載せています。分野別でいうと、活動分類の内訳は、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、産業・技術、芸術・文化、体育・スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、市民生活・国際関係、イベント、託児です。分野別の依頼数の合計が321件で、先ほど述べた依頼数318件と合わないのは、一つの依頼の中で複数の分野の依頼があるためです。活動分野ごとの登録者数も記載していますが、複数の活動分野に重複して登録して活動されている方もいるため、合計は2,223人となっております。

派遣先別の内訳ですが、派遣先は、行政、自主学習グループ、小学校、中学校、学童保育所、その他高齢者施設などになります。さらに、自治公民館、子ども会、PTA、保育所、幼稚園、特別支援学校、老人会などもあります。いろんなところの派遣先で活動していただいておりますが、依頼がやはり少ないところもあります。登録者がいっぱいいらっしやっても依頼がないと活動ができないので、こういったところがこれからの課題になって

いくと思っております。

資料の5ページに、ボランティアバンクの登録派遣事業実績を載せています。平成15年から登録者数がどんどん増えております。たくさんの新しく登録される方がいる一方で、登録をやめられる方がいらっしゃいますので、全体としては少しずつしか増加していないように見えます。プラスマイナスについてですが、すみません、内訳は出していません。

6ページを開いていただきますと、平成22年度の筑紫野市生涯学習ボランティアバンク派遣先別活動内容一覧表を載せています。具体的なボランティア活動の内容を載せております。いろんなところで、いろんな活動をしていただいております。

7ページは、今登録していただいているジャンルの一覧です。平成23年4月現在での一覧になります。ボランティアバンクに登録される時に、活動したい、活動できますよと書いていただいたジャンルで載せております。利用者の方からは、どういった方がいらっしゃいますかとか、どういった活動ができますかという問い合わせがありますので、この一覧を見ていただいております。登録している方は、そのジャンルの資格を持っていらっしゃる方もありますし、資格は持っていないけれど活動できますよと書いていただいている方もいます。ボランティアバンクの登録には、資格の有無は問わないです。利用者の方から「こういったことができますか」と問い合わせがあった時は、登録された方にそれをお伝えして、できるようだったら派遣するような形にしております。

以上です。

(会員) 現状の活動を発表させていただいたんですけど、多分市長さんはびっくりされているんじゃないかと思います。

(市長) そうですね、びっくりしました。

(事務局) 登録者数が右肩上がりですね。

(会員) 減ってないです。

(事務局) 派遣可能なジャンルが幅広いですね。

(市長) 広いね。すごい。

(会員) このようなことを、全ての市町村がやっているわけではないので、この筑紫野市が見本になるものと自負させていただいております。

(事務局) 県内の市町村のどこでもがしているものではないということですね。森田さん、そのあたりの詳しい状況はどうでしょうか。

(会員) 私は、ボランティアバンクの会の設立当初から関わっていますが、この生涯学習センターの中でもこの一等地を私たちバンクの会がに使わせていただいているというのは、私どものバンクの会としても市に感謝しております。部屋も温かくて、明るくて、すぐ目につくところにありますので、皆さん、私たちの事務室にすぐ入ってこられて、それは非常にありがたいことではないかなと思っております。

今、委託事業ということで頑張っておりますけど、数年たって、登録者の方をはじめ、この会を支える人たちが増えてきています。一方で、実際に利用されている方も増えてきていますが、学校関係が3分の1近く占めているということもありまして、公民館とか、まだまだいろんなところで利用していただきたいと思います。せっかく登録されて有能な人材がいるにもかかわらず、やはりまだ活用の部分ではまだまだじゃないかなと思っておりますので、その辺りの周知が必要です。

このような私たちのようにボランティアでやっているところは他には余りないんじゃないかと思います。行政主導でされているところもありますけど、いわゆる市民協働の形で自分たちが率先してやろうっていうところでは類を見ません。そのような意味で、このバンクというのはすばらしい事業じゃないかなと思っております。

(事務局) 登録者数の、例えば数字の目標とか、そういったものはありますか。

(会員) 目標の数字はないですね。

(会員) このボランティア活動に限らず、数字で判断できない部分があるんですよね。だから、どれだけ浸透していったって、広がっていくかっていうことの方が大事です。

(事務局) 登録者の募集とかはどのような方法でされているのでしょうか。広報活動として、市の広報紙や、ホームページにも載せていましたでしょうか。

(会員) その他にバンクの会の独自のホームページも立ち上げています。

(事務局) それで、ボランティアバンクに登録したいと思われる方がいたら、随時、事務局に行けば、登録をしていただけるということですか。

(会員) そうです。それと、実際にボランティア活動をしていくなかで、そこで出会った人たちがバンクに興味を持たれて登録されるということもあります。

(会員) ボランティア活動を実際に行う上では、会員以外の初めての方とも一緒に活動をするわけです。その時に会員と一緒に活動をされた方が満足して、楽しんで帰られれば、その方はボランティアバンクに入ってくる。むしろ、そちらの方が、広報を見て入ったという方よりも多いんじゃないかと思います。だから、活動後のフォローの部分が課題にな



るんじゃないかと思います。

(事務局) 先ほど小学校、中学校が大変多いという話をいただきましたけども、どういったところで活動の場があるのでしょうか。ぜひ一端を教えていただければと思います。どうぞ。

(会員) 例えば小学校のクラブ活動などの中で生涯学習をしています。

(事務局) 例えば、どういったものでしょうか。

(会員) そうですね。例えば、今、阿志岐小のクラブでは、学校から依頼がありまして、約45分授業の中で、囲碁、将棋などをやっています。

(会員) クラブ活動は小学校のいろんなところでありますけれども、学校によって時間が違ったりはします。それと、総合学習。ここでもボランティアの派遣があっっていますし、それ以外には授業中の見守りですね。後は漢字検定もしましたね。

(会員) 毎年、1月か2月に原田小の事業計画には昔遊びってというのが組まれているらしいんですよ。ボランティアで何回か行っていますけれども、最初の頃は何かおもちとかサツマイモとかを七輪で焼きました。七輪で焼くのを子どもたちは知らないんですね。

(会員) おもちは高いからサツマイモを。サツマイモが焼けてしまって炭になったこともありました。

(会員) それで、ボランティアの方たちが炭で火をおこして焼いたんですよ。でも初めて見る子どもたちが多いので、もうびっくりして、それで喜んでいました。その後は羽子板とかお手玉とか、おはじきとか、あやとりとか、こまとかの昔遊びをやっているんですけど、すごく喜ばれます。小学校の低学年にはそういうことをしています。

(市長) ありがとうございます。

(事務局) ボランティアの方も、そういったお孫さんぐらいの人たちと一緒にいるとものすごく楽しいということで、前の晩から寝られなくなるということもあるのではないのでしょうか。

(会員) 実際に活動される前には必ず練習して行かれます。

(市長) なるほど、なるほど。

(会員) 私たちも今度、11月に昔遊びの計画をしています。まずは、事前に学習ですね。いきなりやれって言われても難しい。例えば、あやとりでもいろいろあるんですよ。そういうのを事前に勉強しています。

(会員) 学校によっては毎年依頼が来て、恒例的に昔遊びをしています。

(事務局) 皆さん方が、例えば昔遊びを教えてくださいと言われて実際小学校に行かれて、その時に実際子どもと対面されて、なかなか話が通じなかったりとか、なかなか言うことを聞いてくれないとか、そういった苦労話のようなものがあれば、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

(会員) 私も年間の活動のターゲットは小学生なんです。例えば、こちらが子どもたちの欲する情報をなかなか提供できないということがあって、大体そういうときは、学年の上の子どもを呼んできて、こちらに代わって説明をしてもらう。その時に教わった子どもがうれしそう顔をしているのを見て、我々も本当にうれしくなる。そういうことが多いですね。それも一つの経験かなと思っていますけども。

(事務局) ありがとうございます。他にはございませんか。

(会員) 今の話とは違うのかも知れんけど、私たちが子どものころは、それこそナイフを使いましたよね。もちろんはさみも使いましたし、毎日、包丁ぐらいも使っていましたけど。今はもうナイフを使わしちゃいかん、けがをさせちゃいかんっていうことになっています。私なんか、例えば割りばしを利用してゴム鉄砲を作っているんですけど、それも削らせたり、あるいはちょっとカッターを使ったりというのが、なかなかさせられないところがある。もっとやってもらいたいんですよね。それで、結局ものづくりといいながら、かなりの部分を私たちが作ってやっているのが現状なんですよ。それで、遊ぶことだけが中心になっていく、あるいは作ってやるのにかかりきりになって遊ばせる方はずっと手が回ってないというような現状になりまして、そちらにもちょっと不都合に感じたものがあつたんです。

そこで、1回か2回ではなかなか難しいと思うのですが、子どもたちがナイフを使えるようになる、カッターを使えるようになる、あるいは、はさみを使えるようになるように、来年度くらいに年間シリーズで何かできないかなという相談をしています。

親御さんの中には、ちょっとけがしたぐらいでも大丈夫ですよって言ってくれる方もありますけれども、9割方はけがをさせたら大変だといわれます。

学校の先生方もけがをさせることをすごく恐れていて、私たちが子どもたちに刃物などを使わせたいって言っても通じず、ジレンマを感じています。

(会員) 今の補足なんですけど、実は学校回りをやっているんですけど。教頭先生などに今みたいなナイフを使ったりという話をして、「先生、本当の気持ちは」って聞いたら、「個人的には使えるようになればいいかな」とも言われるんですね。しかし、保護者の方

がやっぱりだめだって言われているみたいで、しょうがないですね。何かその打開策はないかなということもちょっと思案しているんですけどね。

(会員) もう全国的にナイフはだめってなっているかもしれないけど、筑紫野市ではナイフを使ってやるような教育をされたらいいんじゃないですかね。今、青少年事業なんかで回っていて、やっぱり使わせてもいいんじゃないとかって思って、そう言ったりもするんですけど、やはり学校側はこんな感じなんです。

(事務局) そういったものを取り入れるような方針をとれないかということですね。

(会員) そうですね。

(教育部長) ようございますか。学校のほうも工作室とか持っていて、電気の実験をしたりとか、木工で電気ノコとか使わせているんですよ。それで、全く使わせてないということはないんじゃないかと思います。工作等の中ではきちっと安全指導をして、ナイフを普通使わせるということじゃないけど、そういう授業の中では刃物ののみとか、そういう部分を使っていますので、授業としてはやっていますけど、そういう授業外の部分で若干制約しているのかなというふうに思っております。

それから、学校教育ではそういう状況ですけど、社会教育のほうでは、竜岩自然の家というところが袖須原のほうにありますけど、あそこではもうナイフ、切り出しナイフを利用して、切れなくなったらけがするからできるだけ切れるように研いどってくれというようなことで、ナイフは積極的に使わせています。ただし、使う前の安全指導、例えば「こんな切り方したら、必ず手を切るよ」と、「切ったら血が出て痛いよ」というような教え方して、「切る時にはこうして指添えて切りなさい」とか、そういう指導しながら、子どもたちにもできるだけそういう刃物の体験というのは、社会教育の場でも大いに進めておりますので、学校も授業の中では刃物なども使っていると思います。

(会員) 災害なんか最近非常に多いので、そういう意味ではやっぱりサバイバル、そういう部分も知る必要があると思いますよ。いろいろ買って生活するんじゃなくて、ちょっとした工夫で、自分で作り出してという、そういうところも教育したほうがいいかと思います。

(教育部長) いろんな学校で、学校外というか、休みの時なんか二日市小フェスタとか阿志岐小フェスタとかいうような形でPTAと一緒に授業を組んでいるところがあります。ボランティアバンクのほうからも多分応援いただいていると思いますけど、阿志岐小学校等では、例えば孟宗竹を切りまして、それで御飯を炊かせたりとか、あるいはビール

の缶でご飯を炊くとか、そういう部分の活動は学校行事の中でPTAの方と一緒に取り組みをしておりますね。言われますように、ボタンを押して御飯ができるじゃなくて、やっぱり飯ごう炊飯とか、自分でマッチで火をつけて木を燃やしてというような、いろんな体験活動を子どもたちが数多くしていったほうがいろんな知識が身につきますので、できるだけそういう部分は学校でも体験活動というような形で取り組んでもらってところでございます。学校等から派遣の要請がありましたらよろしく申し上げます。

(会員) 今、体験活動というのが出たんですけど、学校の見守りの授業にちょっと参加した時なんか鉛筆のしんが出ない子が多いんですよ。あれ、自分で削ればしんが出て、きちっと字が書けるのになんて思うんですけど。ちょっと訓練しとけば自分でできるんじゃないかと。本当に切れるようなカッターじゃなくて、昔の四角い安全かみそりみたいなのであればけがしてもそんなに大した傷にならないから、そういうのも皆でちょっとやったらいいかなって思ってます。

(事務局) そうですね。自分で出来ますよね。

(会員) はい。ちょっとするだけで、きれいにできるようになると思う。

(事務局) では、ちょっと話を前に進めたいと思います。ボランティアバンクの会では、専門部会を5つ持っているということでございます。事務局を含めると6つでございますね。それぞれ特色ある活動を行ってあるということでございますので、ぜひ今度は部会ごとにお話をお願いしたいと思います。

まず、地域活動推進事業部でございますね、こちらからぜひお願いいたします。

(会員) 地域活動推進事業の発表をさせていただきます。今日は説明をするために資料を作ってまいりました。

私たちは筑紫地区公民館と各コミュニティセンターの6地区を5人で担当しております、各地区でいろんな、技の学習やら、それから仲間づくりの学習会をしております。

ボランティアバンクには、1,500人程の方が登録しておりますけど、まだ1回も活動の機会がない方がいらっしゃるんですね。声がかからないとか、家で待っているけど何もボランティアの機会がないという方たち、仲間がいない、技がない、声がかからないという方たちに、まずはこの学習会に参加してください、そして、この中で仲間づくりをしましょうという呼びかけをしています。

各自、各地区においていろんな技の学習のボランティア活動をしております。最近の活動では、夏休み子ども教室、それから親子で挑戦、それから学童保育でのボランティアを

子どもたちと一緒にさせていただきました。9月は敬老の日ということで、天拝の園にタッチケアに行きましてとても喜ばれましたし、私たちも喜びをいただきました。そういう活動を、仲間づくりと技の学習をしながらボランティア活動につなげております。

以上が私たちの活動です。

(市長) ありがとうございます。

(事務局) 続きまして、研修事業部さん、お願いいたします。

(会員) 研修事業部では、部員8人とそれから事務局、それと行政の亀井教育主事の御参加を得て運営を行っております。

今年度の活動の一つは、会員さんの研修です。これはボランティアバンクの会の会員向けの研修ということで、今年は「私がつくるボランティアバンクの会」をテーマとして行っています。

研修の第1回目は、自分自身がどういうことでボランティアをやれるのか、自分自身の持っているものの良さとか、今まで生活してきた中でいろいろな経験を踏まえてどういうことをやれるのかというようなことを参加者同士で見つけるという内容で行いました。

研修の第2回目では、1回目の研修を踏まえて、ボランティアバンクとしての事業、架空の事業でも構いませんけど、そういうのをどういうふうに立ち上げていくのか、そして、どういうふうに各自が事業ごとにかかわっていくのか、そういうような形での研修を行っております。

これは年3回、会員を対象にやっています。その結果としてボランティアバンクの運営や会員の活動についての認識を深めていただけたんじゃないかなと思っております。

それから、先ほど登録者をどうして増やすかということが話題になっていましたけど、それについては、ボランティアバンクに登録した方を含めてですが、一般市民に向けての研修も毎年1回やっています。本年度も1月前後にやりたいなと思っております。

やり方としては、特定の講師を招いて研修をやるという方法の他に、市が求めるボランティアというのがどういうものかとか、そういった話題を語ってくれる方がいらっしゃれば御協力を求めて、研修を行い、その中で活動の場を広げたいという方がいらっしゃれば、ボランティアバンクの会への登録につなげることができればいいかなと思っております。この件は、生涯学習課の方からいろいろ助言いただきながらやっていきたいと思っております。多少下駄を預けていきたいとも思いますが。

それからもう一つ、館外研修ということで、先進事業自治体を見学し、こちらのボラン

ティアバンクの会に何かしらを取り入れる、というような学習もやってみたいなと思っています。これには、例えばバス等の手配をしていただくなど、市にも御協力をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

概略としては、こういった活動をしています。よろしくお願いします。

(事務局) ありがとうございます。

続きまして、活動支援事業の方からお願いいたします。

(会員) 活動支援事業の説明をしたいと思います。

私どものメンバーは9人で、活動しています。

私どもは、ボランティアバンク登録者の有効活用を図るため、ボランティア活動の支援を目的に活動しています。そのために学習会の企画を募集、開催し、必要となる技術を習得していただき、講師の手助けができる人、活動の後継者、指導者、支援者など活動を応援できる方の育成、拡大をしていきたいと考えています。

仕事としては、ボランティアの指導者と支援者、応援できる人の育成です。指導者は講師をサポートしながらボランティア活動に生かし、次の指導者または支援者を育成して地域との交流を図る。そうして、指導者等のネットワークづくりができればいいかなと思います。それで、学習会をしまして、その後も自主学习グループにつなげ、地域の交流に寄与するようにしたらどうかと思っております。

それと、地域活動推進事業部及び青少年育成事業部の両方を支援し、ボランティア活動のレベルアップを図ること。

それから、生涯学習フェスティバルなどに体験コーナーを出展していますので、これの企画、運営をしております。この中で交流を図り、ボランティア要員を拡大したいというふうに思っております。

それから、学習会として、今年、23年度は、6月に布草履、9月に竹細工、同じく9月に折り紙、11月はわら細工、そして12月が和紙工芸などを行います。一番多かったのが折り紙で、17人の応募者がありました。

学習会の参加者は何個かのグループに分けるのですが、指導者一人では大変で、指導者をサポートしてやらないといけないという状況です。そこで、指導者一人に対して、さらに2、3人つけて、指導者と一緒にあちこちに行ってもらい、指導者のお手伝いをしてもらおうと。そうすれば、指導者のやり方といったものを学んで、今後はその人が指導者になっていけると。そういうネットワークをつくったらどうかと考えています。

去年、平成22年度の学習会の中では、南京玉すだれなどもあります。これには16人の参加があって、地域でもやっておられるというふうに聞いています。そういうふうに活動の成果が出ていけばいいかなと思っております。

以上です。

(事務局) どうも御丁寧にありがとうございました。

続きまして、広報啓発事業部、お願いいたします。

(会員) 広報啓発事業ですけども、ホームページを2年ほど前に立ち上げまして、今日現在でカウント数が1,170ぐらいです。それで、一応各事業部会のほうにリンクして入っていけるようにしております。

青少年育成事業のチラシをつくったんですけども、これもホームページの中で皆さんに紹介するというふうにしてありますし、ボランティア活動の当日につくった作品を皆さんに見ていただくために写真を掲載したりもしております。

それから、ボランティアバンクへの登録と活動の申込み、あと報告書など全部の書類をエクセルやPDFなどのデータでダウンロードできるようにしておりますので、大変重宝がられていると思っております。

それから、登録者全員に会報をお渡しすることがちょっと予算上できないんですけども、各事業部のそれぞれの情報を交換するという意味で、裏表でカラーで刷ったボランティアバンクの会の会報を年3回ほど作っております。実際は登録者の方たち全員に見ていただきたいのですが、郵送料のこともあり、渡す方法について思慮しているところです。

以上が、広報です。

(事務局) どうもありがとうございます。

続きまして、青少年育成事業部、お願いいたします。

(会員) 私どもの事業部は、今年で2年目なんです。活動としては、子どもたちの親御さんがちっちゃな頃に作って、遊んで、楽しんだというようなものを作って、その作り方や遊び方を教えて楽しむということをやっています。その意味では日本の文化というものの伝承の一助になればいいなという思いがあります。

この前の8月には、二日市東小学校で小学生21人のボランティアさんに来てもらって、3日間の活動をやりました。

ちなみに、私はボランティアさんという言葉を使っています。名前を呼ぶよりもやっぱりボランティアだっていう意識づけ、その自覚を持ってもらえればと思ってのことです。

結構反応がよかったです。

初日は、ボランティアさんだけで集ってもらって、我々部員とあとは10人くらいの支援者の方を中心に作り方と遊び方を教えてもらうという学習会です。それを受けて残り2日間は、ボランティアさんが中心になって、他の子どもたちに作り方、遊び方を教えてもらうというふうなことをやりました。

それから、私個人としては、当面の目標として、ボランティアさんはこれまで小学生だけだったんですけども、今年度は中学生も加えてみようということを考えています。たまたまある学校に小学生だけじゃなくて中学生のボランティアも加えたいというふうに言ったら大歓迎されたんです。

「何で先生喜ばれるんですか」と聞いたら、中学生から見たら、小学生の男の子、女の子を見て、昔の自分を振り返り、懐かしさを体験するのがいいんだそうです。小学生はその逆で、中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんに対してのあこがれですね。困ってる小学生がいると中学生のお姉ちゃんたちが何も言わずに、もうぱっとそこに行ってフォローしてくれるということで、本当にああいうのを見るとうれしいなと思いました。

このように筑紫野市のために地域ボランティアの一助にもなればうれしいなということで、学校なんかにはご案内しているところです。

(事務局) 丁寧にありがとうございました。それでは、最後に、事務局でございますが。

(会員) 事務局は、登録派遣の事業と、それから学習相談、こういったボランティアさんに来てほしいと言われたときの相談を受け付けております。それ以外には、担当のボランティアさんの選定と、それからボランティアさんが決まりましたら、依頼者とボランティアと事務局と三者で打ち合わせ、これをコーディネートと呼んでおりますけれども、そのコーディネートをして、そこで事前の確認をしております。依頼内容をより深くボランティアさんに知っていただくため、それから、依頼者がどういったことを目的としているかということと、ボランティアさんに何ができるか、できることとできないことがありますので、それをコーディネートの中で確認をしております。

活動後にも依頼者の方からと、それからボランティアさんから報告書を出していただいております。事務局ではその報告書の処理をしております。ただ、学校に関しましてはできるだけ簡略化しようということで、学校からの報告書のみらせていただいております。他には、報告書が出ましたら活動者の方に派遣費をお支払いしますので、派遣費の処理ですね。今、事務局ではそういうことをしております。



(事務局) 6部会から大変詳しく説明していただきました。どうもありがとうございました。

これまで皆さん方から今までの歩みや現在の状況を詳しく話していただきましたけども、最後に課題や、皆様方からの御要望などをお話の中心に移したいと思います。

(会員) 広報啓発事業部に所属しています鹿田です。お手元のボランティアバンクの登録派遣事業実績という表が9年間の実績ですけど、その活動者数の伸びが鈍っているんですね。登録者は増えているけども活動者数は余り変わってきてない。データがなかなか読みづらいんですけども、実際には、登録者の3割くらいの方だけが活動をしているというのが現状なんです。ここがちょっと盲点で、大半の方は、せっかく登録したけど働いてはないというふうに思っているんですね。

設立当初は、ボランティアバンク通信という形で今の会報みたいなものを年に三、四回ほど登録者に発行していました。これは生涯学習センターの費用でやっていただいたので、できた部分もあるんですけど、現在これは途絶えております。それで、先ほどお話にありましたように、ぜひもう一度登録者に何らかの形でお届けをして、啓発活動をやりたいなと思っています。ただ、登録者は1,500人ほどおられまして、現実的にはちょっと難しいところがあるんですけど、なんとかして活動している人の割合の30%という数字を40なり50なりに上げたいなというのが、広報の切なる希望でございます。

(事務局) ありがとうございます。実質30%の稼働率というのは、ちょっと寂しいですね。

(会員) 寂しいですね。もったいないです。せっかく登録していただいているのに。

(事務局) だから、その活動していない会員さんとの距離を縮めたいということですね。

(会員) 今、ほとんど情報が行き届いていないんですね。自分でホームページを見ていただければいいんですけども、見なければ、もう何も情報がないというのが現状なので。

(会員) 今の鹿田さんの話にちょっと補足説明させていただいていいでしょうか。現在、平成22年度時点での個人登録の方は1,039人ですね。それで、団体登録をしている方も入れますと1,534人という登録者数がある。私は、このボランティアバンク登録者を筑紫野市に増やしていくということが、非常に筑紫野市の活性化につながっていくと思うんですが、実際にはこの1,534人に現在のボランティアバンクの会、ボランティアさんがどのように活動しているかという情報は届いていないというのが現状なんです。広報部の方で今おっしゃいましたように、当初は登録者全員にボランティアバンクの会報

を届けていたんです。今はそれがボランティアバンクの会の会員約40人には届いていますが、この会報を登録者全員に届けることができれば、自分たちがもっともっと活動の場があるんだということを分かっていただけですし、また、私どものボランティアバンクの会が活動の場をつくっていかなくちゃならないという活動も出てきますので、できましたらこの会報を登録者に出していきたい。

(事務局) それは年に4回ということですか。

(堀内代表) 年4回でなくとも年2回でもいいから情報を届けたいんですね。登録者全員がホームページを見るというのはなかなか難しいこともあって、その辺は私ども一生懸命頑張ってるんですが、今のボランティアバンクの会の予算だけではちょっとそこまで回らないというのが現状です。あとは市のほうの対応を、とちょっと補足説明させていただきました。やっぱり自分たちが登録したけど仕事がないっていう状態では意味がない。

(事務局) 大事なことです。その辺りについて、教育部から何か一定の回答等がありましたら。早目の解決をとすることは難しいかもしれませんが。

(教育部長) まず、回答というよりも、利用者数で言えば延べ11万1,000人もの市民の方に、ボランティア活動でそれぞれが持たれてある特技とか知識とか技術を御指導していただいておりますことについて、バンクの会の皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

先ほど経過の中でもちょっと触れていただきましたが、実はこの生涯学習センターに入ってすぐの場所にボランティア室があるんですね。これについて、13年くらい前、生涯学習センターを建てる時に、私もちょっと関わらせていただいておりますので、今日、資料を引っ張りだして持ってまいりました。

実は、この生涯学習センターを建てる時には、市民の方や、当時の市議会の議員さんも含めて20人で生涯学習センター建設の検討委員会をつくっていただいております。市が勝手につくったのではなく、市民をはじめとする検討委員会の方にも、この生涯学習センターの部屋を一つ一つ検討していただいております。

この検討委員会は平成10年につくったのですが、筑紫野市の生涯学習を推進する時にボランティア活動、ボランティアの推進を重点課題として取り組むんだということを掲げていました。

生涯学習といいますのは、生涯にわたっていつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、学んだことが適切に評価をされる社会、これ生涯学習社会ということで当時言わ

れていました。学んだことが評価をされるというのは、ボランティア活動によって、教えてくれてありがとうございましたということで、市民の方から評価を受けると。また、人に教えるということは、先ほど、「前の日に勉強するんですね」ということを言ってありましたが、学んで人に教えるためには、やっぱり自分でもう一回学習し直さなければいけない。そして、人に教えていく。習った人がまたそれを活用し始める。これが生涯学習の推進だろうというふうな位置づけを13年前に検討委員会の委員さん方にさせていただいて、そのためにはやっぱりボランティア活動を推進していくことが生涯学習の推進になるであろうし、そういう市民の方が学習されることが生涯学習によるまちづくりであろうというような結論を出していただいて、ボランティア室をつくったという経過がございます。

ここのセンターの目玉事業として、きちっと皆さん方の活動がされているということで、本当にありがたく思っております。皆さん方の活動は筑紫地区の教育委員の研修会でも発表をしていただいておりますし、県外の市議会からも何回か視察に見えております。すばらしいね、というような評価をいただいておりますので、今後ともぜひ活動をさらに続けていただければということで考えておるところでございます。

ボランティアバンクがますます発展していくためには、登録者の方の参加意識の向上が重要で、そういう部分では情報提供、あるいは、こういうことをやっているんだという情報の共有化がないと進んでいかないというふうに思っております。情報提供に必要な費用を試算しますと郵送料とかかかってまいります、その分については、十分検討をさせていただきたいというふうに思っております。

それと、もう一つ大事なものは、学習会である「このゆびとまれ」の事業の中で活動を市民の方に広げたり、それから市民向けの登録、あるいは登録者向けの研修会をそれぞれで企画していきたいという展望を持ってあります。このことが登録者の方、あるいは市民の方に、ボランティアバンクの会の啓発する活動ということになっていこうと思っておりますので、あわせてその事業づくりも含めて皆さん方と一緒に検討させていただければというふうに思っております。ぜひ前向きに生涯学習課の方でも取り組んでいきたいと思っておりますので、皆さん方もぜひ、様々な角度からこの事業が広がりますようにぜひお願いをさせていただきたいというふうに思います。どうぞよろしく申し上げます。

(会員) ありがとうございます。

(会員) すみません。今思いつきでの発言ですが、活動者数と同じように依頼数もほとんど増えてない。増えたり減ったりで横ばいです。だから、気軽にボランティアの依頼が

できるボランティアバンクの会という機関があるので気楽に使ってください、というふうな程度のアピールをいろんな関係先の課にもアピールしていただければと自分は思います。

(事務局) 他にはございませんでしょうか。

(会員) すみません。もう時間もないので、私のほうから率直によろしいですか。事務局の充実のことです。今、現在、藤田事務局長が局長として携わっていただきまして、山内さんと川畑さんが事務局員として関わってはいらっしゃるんですが、利用者数が延べ10万人を超す、登録者が1,000人を超す、活動回数が延べ5,000回を超すというこの現状をコーディネートし、派遣者の選定をしながら、この3人でさばっているんです。私どもも自分たちの事業のことで精いっぱい、事務局のお手伝いというところまで行かないので、私どもの役員会の中でも毎回出るんですが、事務局の充実をしていかなければいけないんじゃないかなというふうに思います。その辺を併せてお願いをしていきたいなというふうに思っておりますのでよろしくお願いします。

(会員) 補足でいいですか。今の事務局体制の中で、活動された会員の方への振込みの関係は市の職員がされていますよね。その点について、将来的に市としては方向性をどういうふうにされるか、ある程度はっきりしていただきたいなと。このままの体制でいくのか、事務局体制の中でどこまでしていくのか。そこら辺をはっきりしていただかないといけないんじゃないかなと思うんですけど。それを検討していただければと思います。

(事務局) 事務局の方々の苦労も増しているということですね。それに対しまして、一定のコメントがあれば教育部のほうからお願いいたします。

(教育部長) 2点、今言われたと思うのですが、一つは事務局員さんの充実の分ですよ。私もここのセンターに来たら、藤田事務局長と、それから山内さん、川畑さんのほうに、いつも笑顔で迎えていただいております、日々活躍していただいておりますのも十分承知しております。委託料と実際の勤務されている日数との関係についてもお聞きしております。それこそ事務局の方がボランティアで、委託料以上に勤めていただいて、この事業を回していただいているというのも十分理解しておりますので、全体的な予算もありますけれども、予算、委託料について生涯学習課の方で検討させていただきたいというふうに思っております。

それから、ボランティア活動をされると一回に700円ということで、登録者の方に交通費程度の額をお支払いしておりますけど、事務局で手続を行うとなると、相当回数派遣されておますので、事務量の関係などの問題もでてまいります。その辺またバンクの会

の堀内代表と十分に協議をさせていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いします。

(事務局) ありがとうございます。そろそろ終わりの時間となりますが、今日、どうしてもこれだけは言っておかないといけないということがあれば、ぜひお出しいただきたいと思います。どうぞ。

(会員) 先ほど登録派遣の実績の推移の話の中で、依頼数が思ったほど増えてないということがありましたが、実はボランティア派遣の整理をした時に、同じ活動先でのボランティアさんについては3年を限度というところで派遣の見直しをさせていただいたんですね。それで、3年間活動していただいた後は、ボランティアバンクを通さず、直接依頼者とボランティアさんとの活動の依頼をしてもらっているというのもあります。その場合、派遣費があるかどうかは私たちにも分かりませんが、そうやって活動していただいている方がいっぱいいらっしゃると思います。特に施設とかではそういった活動が続いていたりしています。このように資料にある依頼件数の数字には上がらない部分というのがあるので、そのところを、ちょっと気をつけていただければと思います。

(事務局) 他にございませんでしょうか。どうぞ。

(会員) 長い間、ボランティアバンクに関わってきました、よその市の方や事務局の方とお話した時に、こういった仲間がいることがいいねって、事業をしてくれる仲間がいるね、サポートしてくれる人たちがいるのがいいねって、いつもうらやましがられるんですね。それとボランティアバンクを立ち上げる時から行政の職員の方たちがすごく親切に関わってくださるんです。それこそ今、部長になられていますけど、澤田係長だった時から、いつでも相談に乗ってくれたりして、やっとそれでこういうふうに皆さんにお話できるボランティアバンクの会っていうのができている、ボランティアバンクができているってことを藤田市長にもお分かりいただければと思います。皆さん感謝されていますので。本当に筑紫野市ってマンパワーがすごいなっていつも思います。それをやっぱり市役所のほうも受けとめてくださったらいいなと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 最後、激励の言葉をいただきまして、どうもありがとうございます。

本当に今日はありがとうございました。貴重な時間をいただきながら、皆様方のボランティアバンクの会のすばらしい取り組みのお話をお伺いすることができました。

それでは、閉会に当たりまして、最後に藤田市長がお礼の言葉を皆様方に申し上げます。

(藤田市長) 皆さん方の熱心な御意見を拝聴させていただく中で感じましたことは、堀内代表を初め、皆さん方がこのボランティアバンクの立ち上げ前からの歴史を大事にしなから、市民と非常に密着したボランティアバンクとして活動を続けていて、またそれにより成長しているということに触れさせていただきました。

活動件数もさることながら、その親身な取り組みに心を打たれたような感じでございまして、今日はもう少し時間が欲しいくらいでございます。ご要望の件など皆さん方の意に沿うようなことができるかどうかはまだ分かりませんが、なるべくということと検討させていただきたいと思っております。

それから、これは話が変わりますが、東日本の大震災がございました。3,600万円余の義援金を送らせていただきましたと同時に、被災地に災害復旧支援の希望者を職員に募ったところ、28人が志願してくれました。3班に分けて送り出しましたけども、帰ってきた職員がみんなよく被災地に行かせていただきましたと、ありがとうございますって帰ってきたんですね。今、潮見さんから、澤田部長のお褒めの言葉をいただきましたけども、私は自分の市の職員を褒めてもらうっていうのが一番うれしい事柄なんです。今日はこの場に来させていただいて、また、ありがたいお言葉もいただき、本当に貴重なお話を聞かせていただきました。

ボランティアバンクの会の活動と同時に、市の活性化も図りながら、孫、子に誇れる筑紫野市を今後ともつくらせていただきたい、そのように思っております。そのためにはこのような献身的な皆さん方の御意見を機会があるごとに拝聴させていただくことも私の勉強になることとございますので、これからもぜひよろしくお願い申し上げまして、お礼の言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局) 長時間、どうもありがとうございました。これで閉会をさせていただきます。